

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892000019		
法人名	株式会社いっしん		
事業所名	グループホームいっしん館つくば 1F		
所在地	茨城県つくば市上原23		
自己評価作成日	平成23年6月20日	評価結果市町村受理日	平成23年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0892000019&amp;SCD=320">http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0892000019&amp;SCD=320</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成23年8月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各個人の誕生日会やレクリエーションを定期的に企画実行している。日常的に家事等のお手伝いをしていたり、役割を持って生活が出来るように配慮を行っている。また 日々要望をお聞きし添えるように取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々のケアは利用者の要望や希望を受け入れ、ドライブ・公園・外食に行き、利用者が楽しい日々が過ごせるように支援に努めている。グループ全体で研修・勉強会等を行い、職員のレベルアップと職業意識の向上に努めている。利用者は地元の方なので、家族との交流が密である。代表者はグループの全職員の名前を把握し、交流会には率直な意見交換が出来るとの事。ミーティングにも代表は出席をし現場の職員の意見の把握に努めている。一泊旅行は家族・利用者の楽しみとなっていることが、利用者との会話から伺えた。外部からの情報を系列ホームに発信し夫々のケアの向上に努めている。(アニマルセラピー等)

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規定・基本理念・決め事十則を掲げ、新人職員には基本マニュアルを用いて理念の周知を徹底を行っている。	法人の運営規定・理念・決め事10則以外に、職員全員で考えたホーム独自の理念(笑顔と元気・真心介護・助け合いの心)を掲げ、申し送り時に唱和したり、職員会議や日々のケアの中で確認を行い管理者と職員は理念を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩時等外出時は積極的に挨拶し、館主催行事には参加のお誘いをしている。	こちらから積極的に近隣の方々と挨拶をするようにしている。事業所主催の夏祭り(屋台やかっぱ太鼓が出た)に参加してもらって事業所に対する理解を得るよう努めている。ボランティア(傾聴・介護補助・アニマルセラピー等)を受け入れ、利用者として楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー養成講座を通じて多くの人に理解して頂けるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議での参加者どうしで意見交換を行いサービス向上に努めている。	行政・家族・事業所担当者の構成メンバーで3ヶ月ごとに開催。会議内容は利用者の状況・行事内容・外部評価結果等を報告や話し合いを行っている。席上出た意見をサービス向上に活かしている。議事録に残し職員間で共有している。家族から1F/2Fとの交流をとって欲しいとの要望があり、取り入れた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に地域運営推進会議に参加して頂き、施設の状況を伝えたり、違った立場からの意見を求めたりしている。	運営推進会議への出席のほか、管理者は行政に直接出向き、事業所の近況をつたえたり、もろもろな事を相談し協力関係を築いている。つくば市地域密着型サービス連絡協議会に参加し行政と情報交換を行っている。中・高生に体験学習・職場体験の場として提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関は施錠しているが、日中は施錠していない。また、全職員にて身体拘束をしない取り組みをしている。	拘束に対する勉強会を開催し、拘束となる具体的な行為や弊害を職員は理解し、利用者の安全を配慮したケアの提供に努めている。車椅子の点検は定期的実施。夜間のみ防犯上施錠している。拘束を行わない方法での支援策を職員で話し合っていることが確認された。	

茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様を敬う気持ちを持ち、業務を行うことを指導徹底しています。また、虐待が見逃ごされない様、職員間で情報の共有を蜜に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	つくば市地域連絡会の研修に参加し学ぶ機会を得るとともに、理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には利用者様、ご家族様に十分説明を行い理解、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情は随時受け付けし、またアンケート・意見箱を設置しご意見ご要望を頂けるようになっている。頂いたご意見はその都度納得のいくまで説明対応させていただいている。	意見や要望を言い出しにくい家族に対し、意見箱の設置・第3者窓口の明示・アンケートを実施している。面会時やつくば便り・ケアプラン作成時に郵送し要望等を聞くように心がけている。職員異動等に関しては直接家族に報告したり、広報・運営推進会議で伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員ミーティングをはじめ、普段の業務の中でも職員同士で意見交換を積極的に行い、サービスの向上に活かしている。	毎月の職員ミーティング時の他に日々感じたり、思ったその時々には職員は管理者に意見を伝えている。管理者も職員の様子や表情から声をかけてストレスや悩みの解消に努めている。意見交換は活発であるとの報告を受けた。現場の意見は大切に、マネージャーと職員と意見交換を行い、それを反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ミーティングや、男性職員ミーティングにて、職員同士の交流や意見交換を行い、悩みや相談事を話し合ったりして、やりがいがある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を活発に行い、DVD等も活用し、いつでも学習できる体制にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	つくば市地域密着型サービス連絡会議に参加し、より良いサービスに供う質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1で話せる環境作りに勤め、要望や不安等を傾聴している。また、気付きシートやアセスメント様式を用いて現状把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居日に利用者様についてや、御家族様の希望等ゆっくり話し合える機会を作り、理解するように心掛けている。また、入居後もまめに連絡を取り合い、1日でも早く御家族様との関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況において緊急を要する事を優先し、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ等を手伝って頂きながら、昔の思い出話や、色々な経験を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真付きのお便りを郵送し利用者様の状況報告を行っている。また、行事やレクリエーションに参加して頂ける様にお誘いの連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話等により馴染みの関係が継続出来る様に支援に努めている。	手紙・電話で家族や友人との関係継続に努めている。家族の協力を得て自宅に戻り、懐かしい一時を過ごす利用者も居る。友人と一緒に外食・買物や馴染みのコーヒーショップに出かける利用者もいる。戦没者を偲んで靖国神社に出かける利用者もいる。	

茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する利用者様が居ないように、普段の会話やコミュニケーションの中で、利用者様同士の橋渡しを職員が間に入り行っている。また、レクリエーションを通じて、利用者様の交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所は、グループホームの他にも関連施設があり、そちらに転居できる仕組みになっているので、利用者様・ご家族様と連絡を取り支援させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の要望を傾聴する環境を作り、アセスメント等を活用しながらご本人の意向を把握できるように努めている。意思疎通が困難な方に対しては、ご家族様からの要望を聞き利用者様の意向に添えるように工夫している。	アセスメント・生活暦を把握し、利用者、家族の思いや意向を聞き、それに添えるように努めている。意思表示が困難な利用者には家族から聞いたり、表情や様子から把握しているが、職員同士で利用者本位かどうか話合っている。利用者の思いを一日一日把握するのが大切と考え支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活暦を把握し、個々が得意とする事、好み等を見極めて日常生活の中に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、申し送り帳、日誌、朝礼を活かして心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の意見を取り入れ、より良い生活が送れるよう、状態に変化があった場合には職員間で意見交換し現状に沿うよう介護計画書をいかしている。	利用者・家族の意見を取り入れ、利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について職員間で話し合っケアプランを作成している。作成後は家族に郵送し確認してもらっている。モニタリング・評価を実施し現況に即したプランの作成を行っている。ケース記録は細かく記載されたい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送り帳・日誌を活用し、利用者様の様子やケアについて記録として残している。その内容を全職員が把握して介護計画書作成にも活かしている。		

茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族の希望に添えるよう対応、支援を心掛けている。また、当事業所はグループホーム以外の関連施設もあるので、利用者様の身体状況に即した対応が可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な消防訓練を地域の消防署に指導して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、受診は、利用者様やご家族様の希望に応じ対応している。また、年に一度の健康診断を実施している。	医療連携の医師とは24時間対応可能である。かかりつけ医の受診は家族か職員が付き添い(有料)、受診後は家族に報告していることが確認された。専門医の受診体制は出来ている。	受診後は受・往診記録に記入し、家族に電話報告か記録を見てもらっているが、その確認をきちんと、(いつ・誰に)報告したか？記録を誰が見たか？と記入されることが望ましい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診、受診に加え、月2回訪問看護があり、その都度気軽に相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き、相談員と連絡を取ったり担当医から病状説明を受け、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては入居時にご相談している。その後も利用者様、ご家族の意向を聞いたり、医師と連携を図りながら最善の方法を取れるようにしている。	契約時に説明し十分な話し合いを行っているが、重度化した場合、家族の想いも変わるのでその都度、医師・事情所・家族と話し合いを重ね利用者にとって最善の方法での支援の提供に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが救命救急の講習を受けている。AEDの設置により講習会も開催した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防所の協力を得て定期的に消防避難訓練を行っている。非常災害用品を備えている。	消防署指導の訓練のほか自主的訓練を実施し、避難経路・利用者の行動の把握・消火器の使用法・通報システム・緊急連絡網等がスムーズに行えるよう全職員が身につけている。大震災時には本社からの飲料水のいち早く提供があった。備蓄品は再度検討しリストアップし整備した。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みのある言葉で会話する等利用者様一人一人に合わせた言葉使いや声掛けを行っている。	調査日は利用者に対する声掛けは穏やかで、人生の先輩として丁寧な言葉で話しかけていて、入居者の誇り（職員が利用者へ感謝の言葉をかけていた）やプライバシーを損ねない対応であった。書類はスタッフルームの鍵のかかる書庫に保管。情報公開に関する同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見を尊重し、利用者様本人に決定権を委ねよう普段から傾聴会話の機会を多く作っている。意思疎通困難な方には職員が助言しながら決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしを時間で区切らず個々の生活のリズムに合わせたケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	当事業所の訪問美容室を希望に応じて利用出来る。希望に応じて一般の美容室の利用も出来る。日頃より清潔、身だしなみに気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べたい物を献立に反映できるようにしている。食器拭き等を手伝って頂き片付けに参加して頂いている。昔馴染みの郷土料理等を利用者様と一緒に作るようにしている。	食べることは利用者の大きな楽しみであるので、食材の買出し・献立・調理・味付け・配膳・下膳と一連の作業を通し、利用者の出来る範囲で生きがいとなるよう支援に努めている。職員も同じテーブルを囲み会話のある楽しい食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に応じた食事を記録し、状態に合わせた食事形態にしている。制限のある利用者様もいるので摂取量の管理を行っている。		

茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに加えて定期的な歯科往診にて口腔内の清潔保持、治療アドバイスを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレ誘導や声掛けにて個々に合った排泄支援を行っている。	排泄パターンや利用者の様子から把握して前誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。失禁時は他の利用者に分からないように居室やトイレで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常より水分補給を促したり食物繊維の多い食品や整腸作用のある食品を献立に取り入れている。毎朝牛乳を提供できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい日、時間帯に入浴出来るよう配慮している。温度や入浴方法も個々の好みに沿って対応している。	曜日・時間・温度・シャワー浴等利用者の希望に応じた支援を行っている。入浴剤を使用し利用者はリラックスして入浴を楽しんでいる。足拭きマットは個人のものを使用し皮膚感染防止に努めている。利用者から色々な話を聞ける機会である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類居室の温度調整をこまめに行い安眠出来るように配慮している。天気の良い日には布団も干している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為職員2名にて十分な確認を行っている。薬が変更になった場合にはその都度職員全員が周知出来るように申し送りを徹底している。薬の内容を理解し服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の生活歴や得意な事に合わせた役割、手伝いを行って頂き、毎日張り合いをもって生活できるように支援している。		



茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出レクリエーションを行ったり普段からも散歩やドライブに出かけたり、職員と一緒に買い物に行くなど外出支援を行っている。	毎月の外出レクリエーション以外にも、天気の良い日や利用者の要望に応え、買物やドライブ、外食・散歩に出かけ外気を浴びて、気分転換を図るように積極的に努めている。一泊旅行は利用者の会話からとても、楽しみにしていることが伝わって来た。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上金銭管理可能な型には使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は利用したい時に自由に利用していただいている。ご家族様からの電話についても、いつでも取り次ぎされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で清潔な空間作りに努めている。季節に合った飾りを取り入れ季節感を感じて頂いている。	家庭的な共有空間で家具等を安全面を考慮し配置されている。利用者が混乱を招かないよう居室の入り口には名札・写真が表示されている。家族と利用者の話題提供として、夏祭りや外出時の写真を壁に飾ってあった。写真に写っている利用者の笑顔がホッとする雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き和室にはコタツやテーブルを置き自由に使えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでもらい、個々の居室作りをしている。また、ご本人様の趣味や生活歴に合った掲示物を飾ったりしている。	箆笥・テレビ・テーブル・椅子・仏壇や趣味のキーボード・ラジカセ等を安全面に配慮しつつ配置されている。趣味の絵画(ゴッホ・モネ・ルノアール)や塗り絵・ぬいぐるみ・飾り物、家族の写真を飾り、利用者にとって居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂をわかりやすく表示している。各居室前には表札や利用者様の顔写真を掲示して混乱がないように配慮している。掲示する際にはご本人様やご家族様より了解を得ている。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	受診後は受・往診記録に記入し、家族に電話報告か記録を見てもらっているが、その確認をきちんと、(いつ・誰に)報告したか、記入する事が望ましい。	受診後は受・往診記録に記入し、家族に電話報告か記録を見てもらっているが、その確認をきちんと、(いつ・誰に)報告したか、記入する。	現在の受・往診記録票に、新たに家族報告欄を追加し、いつ・誰に報告したか記入する。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。